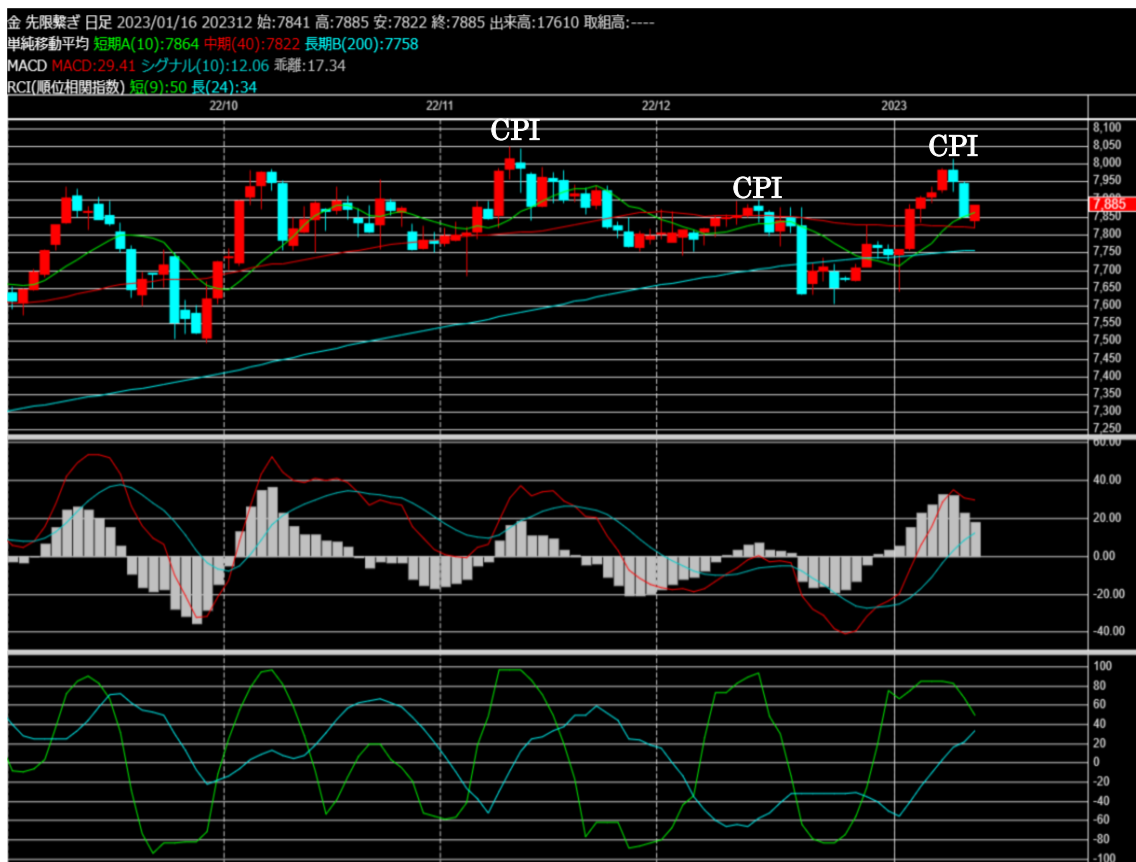


<金標準先物、18日の日銀金融政策決定会合以降は巻き戻し・・・>



(出所：オアシス)

雇用統計で平均時給が低下、CPI でも前年同月比で前月の 7.1%から 6.5%へ低下し、コア部門でも前年同月比で前月の 6%から 5.7%へ低下している。また週末に発表されたミシガン大消費者信頼感指数でも 1 年先のインフレ期待が 12 月の 4.4%から 4.0%へ低下するなど、FRB が過去 4 回実施してきた 0.75%の利上げ実施を受けたインフレ抑制の予兆を見せている。そのため 2 月 1 日に開催される FOMC で 0.25%の利上げ幅縮小観測が高まりを見せている。特に読売新聞は今週 18 日開催の日銀金融政策決定会合で大規模緩和策の検証を行うと報じており、FRB の利上げ幅縮小と日銀の金融政策の変更が重なり、為替市場では昨年 5 月以来の 127.45 円まで円高・ドル安が進み、NY 金はドル安を受けて昨年 4 月以来の 1925.3 ドルまで高値を試している。しかし円建ての金標準先物は CPI の発表以降は 11 月、12 月同様に円高を受けて高値 8015 円から下落している。そのため 18 日の日銀金融政策決定会合まで円高を受けて下値追いを続け、会合が終われば織り込み済みの巻き戻しが強まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げだしシグナルは上昇している。RCI も短期が下げながら長期は上昇を示すなど、目先下げ止まる雰囲気が強まると思われる。特に日足が 40 日移動平均線で下げ渋るなど 7800 円の抵抗には注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,920,000 円(2023 年 1 月 16 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 1 月 16 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>